



門利
2/8
卷

源氏ル下巻第六

あ

一あけくわむちと云也 強運

一あつむ 強運 一あつれらる

也又あつるさふと云あつれと云也

一あへさく 強運

一あへさく 強運

一あへさく 強運

一あへさく 強運

一あへさく 強運

多
運
日本
記

一わき^寄の 源氏のつもぎ^ミあふは^ミた^ミあ^ミは^ミん
とまう^ミぬと^ミ人の^ミあふ^ミひ^ミす^ミ也

一あぢい 桑内也 一あぢい 桑内也 一あぢい 桑内也

一わくは家よとるゝぬ
朝露 眞名利々陽
愛子 浮々自氏文集
一わくは
諸院は別當

卷之三

や又あまゝゝゝや

しとち

如脚と云ふと云ふ

一わかれおしとるを
きけ

一わをきくに空をあら

一あづなう

一、与世諸院、別富

朝露貪名利夕陽

一
二
三

11. 11. 11.

軟^{ナカ}くまされぬ^{ナカ}この^{ナカ}の^{ナカ}也^{ナカ}
穴^{ナカ}買^{ナカ}あ^{ナカ}う^{ナカ}こ^{ナカ}づ^{ナカ}け^{ナカ}ち^{ナカ}と^{ナカ}え^{ナカ}ん^{ナカ}と^{ナカ}

一 おろそまら

岡伽^{ガガ}林^{リン}凡^{ヘン}語^ゴ也^ヤ水^{スイ}と書^{カキ}ふ也^ヤ

一 并 あさふ まの初は 難波はとこふ 夢あふふ

そり。ひまろんよびものせろ。ぢ奇

のふらふらとひたひたふらふら

一あゝと云 若のふれはうたふもて。うたふと

芳々み浦とハタリ。ハタチと。これハタチと。

六人あそびのうた

一わろく
ね^{サダ}のふでよそせうも

下

卷之四

一あきふねね也

一あきすゑしゑおあはに

うねりふらふ花のまゝあきすゑしゑおあはに
いづれぞと。今ぬくふちのうねりふらふ花のまゝ
也。うねりこのむしと。今ぬくふちのうねりふらふ花のまゝ
うねりふらふ花のまゝあきすゑしゑおあはに
まねるあきふねのうねりふらふ花のまゝ

一あきふねね也

一あきすゑしゑおあはに

うねりふらふ花のまゝあきすゑしゑおあはに
いづれぞと。今ぬくふちのうねりふらふ花のまゝ
也。うねりこのむしと。今ぬくふちのうねりふらふ花のまゝ
うねりふらふ花のまゝあきすゑしゑおあはに
まねるあきふねのうねりふらふ花のまゝ

を恨ふも也

一あきすゑしゑおあはに

和泉式部。船名にうねりの船と。うねりふらふ花のまゝ
けり。東坡詩云。換扇惟逢春夢覺。夢覺と。今ぬくふちのうねりふらふ花のまゝ
也。うねりこのむしと。今ぬくふちのうねりふらふ花のまゝ
うねりふらふ花のまゝあきすゑしゑおあはに
まねるあきふねのうねりふらふ花のまゝ

一あきふねね也

一あきすゑしゑおあはに

うねりふらふ花のまゝあきすゑしゑおあはに
いづれぞと。今ぬくふちのうねりふらふ花のまゝ
也。うねりこのむしと。今ぬくふちのうねりふらふ花のまゝ
うねりふらふ花のまゝあきすゑしゑおあはに
まねるあきふねのうねりふらふ花のまゝ

セバ洞のミヤにまじりて也。新羅やうまひるもて

一わさめおのふまゝひる夏の様也

一あさり 永食 一わさ人のあまてゝん 琵琶

長安 偶あ妓女 華字 琵琶 穆曹二善才 年

張色 妻女 身ヲ 為 商人 婦

一あまびこと 梅女 必

一あけまた 童の馬牛 飼也 以の終角ちるも

て也 童のあま也 又車あとも

一あべのおり 安陪多 竹丸 妙法 略之

一あうら 水干 けものやうめ也 赤又のうらに

横がさのうらに ねるねの着物也 ちの二と

もさめめめ也 ねるねの面うも 葉裏 崩

一あまの ちのの也 三歳まで用て 法

一あまも ちのの也 天兒

一あまひ ね 一あまの けの 人の

うらうら ちのの 一あまの けの 人の

一あまの けの 人の

一あまの けの 人の

一あまの けの 人の

一あまの けの 人の

一あまの けの 人の

一あまの けの 人の

又元^デ服^ゾされしより故^コとすらんあり。地下へ之
久^キく候^{コト}理^リ也。一世^イ氏^シ子^シ六^{ロク}も^モ應^{オウ}後^ゴ又^{マタ}位^イ下^カされ
ば。おけの袍^ホも入^イりし衣^エも妻

一あをいづると 学生カガキの入學ニシケルの時。文章モリヤ院ダテの堂タテ
 監ミ書カキくさす。新メイ落ホあさふをさる也。聖セイ廟ビョウ法ホフ
 字ジハ。昔コト王オウ三ミ高コウ清セイ行コウ字ジハ。三ミ耀コウといふ。夕セキ芳ホウ
 の字を源ゲンあるといふ。一あをいづるとさる也。
 天照大神アマテラスあてまつります。えんをさる。天人テンニン也。
 舞マヒ姫ヒメと云。一あをいづるとの紙。舞マヒ姫ヒメの
 衣イ。五日イツチノヒハ赤アカ色イロ。唐カラ衣キヌ。寅トラ日ヒハ青アヲ色イロ。唐カラ衣キヌ。辰タツ日ヒ

青摺唐衣。志紐日蔭髪也。青摺ハ不忌也。
 也。源氏の志文やうな髪を辰日のうまれハ青摺氏
 也。又節を返しまゐる也。青摺の紙ハ蠟也。
 この唐衣のえ 一あゝうろのほくそまゝに
 極下地衣也。面ハ番通也。衣ハ極也。青色ハ麤塵
 也。号也。一あれもとあゝぬ 我中
 あゝぬ也。ちまもひ也。一あゝもどまづも何蛭
 おハ父母は挫られもど。ぶづくの力ハよまゝそ
 こそなり 一あゝ花田のういれと
 この海賊ハ大波はもう奥をうぐる也。あゝ花田

きぶ。白やうもいふ也。いふは、いふの字也。
一ちやうやう。鹽シホの字也。あふもいふやうな
ふといふ也。青やうアヲ也。

一わんごふみり

わいふもあはれおぼしきありけり。我が世にまゐるはたか
け事一首よりうづらぐさす。想して整えたる一首をわづ
と云へども。コトニエスル好縁由んや。その中ハ中ハ文字あるに
私動古今五枚といふべきにぞまじりあざるの後撰意一
くみて見るべしなむそれであらん。

一あれを直るに之れ時也

一わづらうのちへをるまゝふねのみあひ リホウノ 李亨主記

襖等人の衣束。緋冠、緋塵尾、白下袴、着深
 簪持、白杖。西宮の衣束、折々。青色、緑塵、袍、白下
 袴半臂、白石帯。深履、綿花、白杖。今東紫青
 文と、ハチカ、以て下にとぐんとれんとる。尉斗と、衣裳
 持は三人、六位袍を着ると、やうくとり。白杖と、床
 人まで、是も持也。舞童ハ線靴とくとつとつ
 一わろ。胡麻と。日本記よあつとあり。赤いのは。
 腰ひらり袷也。今も長倉ちよと。胡麻と、角用
 一あかんども。今もと也。一あんのどと、あんのどと也。
 一わろねと、このと。標へ面落、又裏青也。ととこ。

樂之於人

五愛達

此股也

也

步法也

馬

の夜

三才圖會

後天

也

倚玉色織衣回

方寸時用之

也。台慈一禪也。

心王所攝之云云あり

文華の若の美のちり

ちよふくもきふち

奇の若垣のてふちや

奔少將之

也。要之襖みれ

一あふうううう

のまねううう

一あをうう柳うう

あをうううう

一あをうう丹ハ濃うう

うう

一あうううう世うう

一あううううう

一あううううううう

せうううう

一あうううううう

一あううううう

一あうううううう

花也

一あううううう

今れううう

一あううううう

のあううう

一あうううう

後馬 移の勢

一あうううう

一あううう

一あううう

一あううう

一あううう

一あううう

一あううう

一あううう

一あううう

一あううう

一あううう

一あううう

一あううう

一あううう

一あううう

あつねだとも

日づの念松もや

解と号も

也月隠車山今弊

一あさほくを

一あさほくを

一あさほくを

一あさほくを

一あさほくを

一あさほくを

一あさほくを

一あさほくを

一秋の事いゝ里まゝ七

一五月の月十六日午後

一あさほくを

一あさほくを

一あさほくを

一あさほくを

一あさほくを

一あさほくを

一あさほくを

一あさほくを

一あさほくを

一あさほくを

あつねだとも

日づの念松もや

解と号も

也月隠車山今弊

一あさほくを

一あさほくを

一あさほくを

一あさほくを

一あさほくを

一あさほくを

一あさほくを

一あさほくを

あつねだとも

日づの念松もや

解と号も

也月隠車山今弊

一あさほくを

一あさほくを

一あさほくを

一あさほくを

一あさほくを

一あさほくを

一あさほくを

一あさほくを

卷之四

水經

うさ舟
りて内儀を^シ傍友十^テ程^ニ補せられうとせ
一ち^シ度^ニ六^テらうふらん^ニ寝^テ度^ニの新造は位と也

一
ありと
泥
鞆也

一舟の角をうご一昨日の面やいふ

の日本病院にて偽造浮舟と交付し也

一、おしかり 考へしや也

一、（五） 我知無のちもさるゝを

平 一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十 二十一 二十二 二十三 二十四 二十五 二十六 二十七 二十八 二十九 三十 三十一 三十二 三十三 三十四 三十五 三十六 三十七 三十八 三十九 四十 四十一 四十二 四十三 四十四 四十五 四十六 四十七 四十八 四十九 五十 五十一 五十二 五十三 五十四 五十五 五十六 五十七 五十八 五十九 六十 六十一 六十二 六十三 六十四 六十五 六十六 六十七 六十八 六十九 七十 七十一 七十二 七十三 七十四 七十五 七十六 七十七 七十八 七十九 八十 八十一 八十二 八十三 八十四 八十五 八十六 八十七 八十八 八十九 九十 九十一 九十二 九十三 九十四 九十五 九十六 九十七 九十八 九十九 一百

[illegible]

秋の
は
奇
野
邊
の
家
を
そ
あ
ら
び
霜

の家をとりあへずして子孫宿まひ

ちとろ
衣にし世の船見

此袖とあまなうりたる月やうけく夢んころ

あやみ山 北多志 夏山也

370

一
さうえ
曹ハタニ
子シヨ
二
さうえ
三
サ
サ

賢サカニうニてハ一ニさニくニ家イヘ来キ也ナリ

一さうくーさびーと也 河
年ササキ実ミ

礼部

中

卷之九

1800. 1801. 1802. 1803. 1804. 1805. 1806. 1807. 1808. 1809. 1810. 1811. 1812. 1813. 1814. 1815. 1816. 1817. 1818. 1819. 1820. 1821. 1822. 1823. 1824. 1825. 1826. 1827. 1828. 1829. 1830. 1831. 1832. 1833. 1834. 1835. 1836. 1837. 1838. 1839. 1840. 1841. 1842. 1843. 1844. 1845. 1846. 1847. 1848. 1849. 1850. 1851. 1852. 1853. 1854. 1855. 1856. 1857. 1858. 1859. 1860. 1861. 1862. 1863. 1864. 1865. 1866. 1867. 1868. 1869. 1870. 1871. 1872. 1873. 1874. 1875. 1876. 1877. 1878. 1879. 1880. 1881. 1882. 1883. 1884. 1885. 1886. 1887. 1888. 1889. 1890. 1891. 1892. 1893. 1894. 1895. 1896. 1897. 1898. 1899. 1900. 1901. 1902. 1903. 1904. 1905. 1906. 1907. 1908. 1909. 1910. 1911. 1912. 1913. 1914. 1915. 1916. 1917. 1918. 1919. 1920. 1921. 1922. 1923. 1924. 1925. 1926. 1927. 1928. 1929. 1930. 1931. 1932. 1933. 1934. 1935. 1936. 1937. 1938. 1939. 1940. 1941. 1942. 1943. 1944. 1945. 1946. 1947. 1948. 1949. 1950. 1951. 1952. 1953. 1954. 1955. 1956. 1957. 1958. 1959. 1960. 1961. 1962. 1963. 1964. 1965. 1966. 1967. 1968. 1969. 1970. 1971. 1972. 1973. 1974. 1975. 1976. 1977. 1978. 1979. 1980. 1981. 1982. 1983. 1984. 1985. 1986. 1987. 1988. 1989. 1990. 1991. 1992. 1993. 1994. 1995. 1996. 1997. 1998. 1999. 2000. 2001. 2002. 2003. 2004. 2005. 2006. 2007. 2008. 2009. 2010. 2011. 2012. 2013. 2014. 2015. 2016. 2017. 2018. 2019. 2020. 2021. 2022. 2023. 2024. 2025. 2026. 2027. 2028. 2029. 2030. 2031. 2032. 2033. 2034. 2035. 2036. 2037. 2038. 2039. 2040. 2041. 2042. 2043. 2044. 2045. 2046. 2047. 2048. 2049. 2050. 2051. 2052. 2053. 2054. 2055. 2056. 2057. 2058. 2059. 2060. 2061. 2062. 2063. 2064. 2065. 2066. 2067. 2068. 2069. 2070. 2071. 2072. 2073. 2074. 2075. 2076. 2077. 2078. 2079. 2080. 2081. 2082. 2083. 2084. 2085. 2086. 2087. 2088. 2089. 2090. 2091. 2092. 2093. 2094. 2095. 2096. 2097. 2098. 2099. 2100. 2101. 2102. 2103. 2104. 2105. 2106. 2107. 2108. 2109. 2110. 2111. 2112. 2113. 2114. 2115. 2116. 2117. 2118. 2119. 2120. 2121. 2122. 2123. 2124. 2125. 2126. 2127. 2128. 2129. 2130. 2131. 2132. 2133. 2134. 2135. 2136. 2137. 2138. 2139. 2140. 2141. 2142. 2143. 2144. 2145. 2146. 2147. 2148. 2149. 2150. 2151. 2152. 2153. 2154. 2155. 2156. 2157. 2158. 2159. 2160. 2161. 2162. 2163. 2164. 2165. 2166. 2167. 2168. 2169. 2170. 2171. 2172. 2173. 2174. 2175. 2176. 2177. 2178. 2179. 2180. 2181. 2182. 2183. 2184. 2185. 2186. 2187. 2188. 2189. 2190. 2191. 2192. 2193. 2194. 2195. 2196. 2197. 2198. 2199. 2200. 2201. 2202. 2203. 2204. 2205. 2206. 2207. 2208. 2209. 2210. 2211. 2212. 2213. 2214. 2215. 2216. 2217. 2218. 2219. 2220. 2221. 2222. 2223. 2224. 2225. 2226. 2227. 2228. 2229. 2230. 2231. 2232. 2233. 2234. 2235. 2236. 2237. 2238. 2239. 2240. 2241. 2242. 2243. 2244. 2245. 2246. 2247. 2248. 2249. 2250. 2251. 2252. 2253. 2254. 2255. 2256. 2257. 2258. 2259. 2260. 2261. 2262. 2263. 2264. 2265. 2266. 2267. 2268. 2269. 2270. 2271. 2272. 2273. 2274. 2275. 2276. 2277. 2278. 2279. 2280. 2281. 2282. 2283. 2284. 2285. 2286. 2287. 2288. 2289. 2290. 2291. 2292. 2293. 2294. 2295. 2296. 2297. 2298. 2299. 2300. 2301. 2302. 2303. 2304. 2305. 2306. 2307. 2308. 2309. 2310. 2311. 2312. 2313. 2314. 2315. 2316. 2317. 2318. 2319. 2320. 2321. 2322. 2323. 2324. 2325. 2326. 2327. 2328. 2329. 2330. 2331. 2332. 2333. 2334. 2335. 2336. 2337. 2338. 2339. 2340. 2341. 2342. 2343. 2344. 2345. 2346. 2347. 2348. 2349. 2350. 2351. 2352. 2353. 2354. 2355. 2356. 2357. 2358. 2359. 2360. 2361. 2362. 2363. 2364. 2365. 2366. 2367. 2368. 2369. 2370. 2371. 2372. 2373. 2374. 2375. 2376. 2377. 2378. 2379. 2380. 2381. 2382. 2383. 2384. 2385. 2386. 2387. 2388. 2389. 2390. 2391. 2392. 2393. 2394. 2395. 2396. 2397. 2398. 2399. 2400. 2401. 2402. 2403. 2404. 2405. 2406. 2407. 2408. 2409. 2410. 2411. 2412. 2413. 2414. 2415. 2416. 2417. 2418. 2419. 2420. 2421. 2422. 2423. 2424. 2425. 2426. 2427. 2428. 2429. 2430. 2431. 2432. 2433. 2434. 2435. 2436. 2437. 2438. 2439. 2440. 2441. 2442. 2443. 2444. 2445. 2446. 2447. 2448. 2449. 2450. 2451. 2452. 2453. 2454. 2455. 2456. 2457. 2458. 2459. 2460. 2461. 2462. 2463. 2464. 2465. 2466. 2467. 2468. 2469. 2470. 2471. 2472. 2473. 2474. 2475. 2476. 2477. 2478. 2479. 2480. 2481. 24

一さうくても
悪也

一、山崎 深のたふはるひやまに

あふりて。云々。世に。上と。下と。あるを。見る。

久松義典

[illegible]

うけし寄ハ野^ノ多^タ也^ヤ多^タレハ^ハう^ウあ^アう^ウて^テぬ

一、うゑち^てい^てさ^うふ^ふの^の科也

一ささき
一ささき

一さうが
流石リウシツ
一さうじと
中人チュウジンのくも

正身直身之人也
一之れと
筆也。常此

十三弦の琴也
一されとくされとく也

龍鐘也

あふれうう
一さうじら
雑草

いづくのち
一さふに
蜘蛛の糸

いひよと云ふは、ちひやう

不

五

ふるふ内裏に後見へしや。流るるや。但内裏は
左馬府あり。近侍後見は左馬府あり。内裏
ふるふ二町あり。近侍より左馬府より東。麻屋
とて丹ぬる。今絶る。或説ふ。左馬府の
くまは。左馬府とて。孟津

一ささくとも。四又地なるか也

一ささくとも。付史也。一ささく里外の子。里外
随行者。十九年。同任轉達。在昌賦。十月中。長至
夜。ささく里外。遠行人。着る。独宿。楊梅館。冷枕。草
床。工病身文集。一紀。延年。尼仏。子。弄金

剛佛に斯ちをいふのん也

一ささくとも。付史也。一ささく里外の子。里外
随行者。十九年。同任轉達。在昌賦。十月中。長至
夜。ささく里外。遠行人。着る。独宿。楊梅館。冷枕。草
床。工病身文集。一紀。延年。尼仏。子。弄金

一ささくとも。幾瑞ゆを奇怪とてささくとも

一ささくとも。ささくとも。或説。漢皇女。殺る。内
親王。寺女。ささくとも。ささくとも。若れ。ささくとも。後
一ささくとも。ささくとも。殺の字也。愁殺とて。後
ささくとも。ささくとも。人をささくとも。ささくとも

一ささくとも。ささくとも。ささくとも。源氏の故院を。後
ささくとも。ささくとも。ささくとも。ささくとも。ささくとも

一ささくとも。ささくとも。ささくとも。ささくとも。ささくとも

一ささくとも。ささくとも。ささくとも。ささくとも。ささくとも

三三三
三三三

一子^{タラ}の^{タラ}も^{タラ}も^{タラ}奴^{タラ}し一里^{タラ}を^{タラ}藤原^{タラ}に^{タラ}安^{タラ}せ
ハ^{タラ}他^{タラ}名^{タラ}所^{タラ}一^{タラ}
一^{タラ}も^{タラ}も^{タラ}を^{タラ}さ^{タラ}る^{タラ}べ^{タラ}の^{タラ}あ^{タラ}は
一^{タラ}も^{タラ}も^{タラ}を^{タラ}さ^{タラ}る^{タラ}べ^{タラ}の^{タラ}あ^{タラ}は^{タラ}あ^{タラ}う^{タラ}ま^{タラ}也^{タラ}。

神社のあかへし。あまのあかきの上のうれまひ
—とをりやう。れま。あまのうれまひとれま。
中つたは海にあひやう。うれまをうれまとあへし。

一、さくちやう 陽杖也 サウチヤウ
一、さくちやう 杖也 サウチヤウ

けううがれ樓うらのうと云奏よたのおとぶるあ
 おはつ殿とととうりうとを。すめねつありつと云

[illegible]

一審中將之在中納

云々如法ぬを杜といは奉るまゝ宇治の如法
をくその年れ杜といふべしサび時分と紅梅竹

いふはちやう年たるを。意は、歳の暮とんべう。

さむらひのともをさ 今更らるるやあはれ

[illegible][illegible]

夕風吹おる金魚池に
 花の香をよそよそと
 吹送る

ささびつる里るる元
守家一太速人味教野
群牛引續休所
一さぬう上
極好

一
極好

こつん とうへんの 一さうぬん 不去別

さうやく 雑役也 若菜 総角の 漢也 草の 茎一

隆也
一
邪也

さうじありて後下也一うびやじ 蜀柏子也

一、
一、
横也
一、
一、

一、

さうぞ
さうはあゝぬが　こいつこそそれほどに
際

うそちきしき也。なまなりなる物あり也。
きしきは儀式也。一きしきなる清也。

一
 男
 七
 年
 七
 月
 七
 日
 七
 時
 七
 分
 七
 秒
 七
 毫
 七
 絲
 七
 忽
 七
 微
 七
 纖
 七
 塵
 七
 沙
 七
 塵
 七
 土
 七
 水
 七
 火
 七
 風
 七
 空
 七
 地
 七
 天
 七
 人
 七
 鬼
 七
 神
 七
 仙
 七
 聖
 七
 賢
 七
 士
 七
 女
 七
 男
 七
 子
 七
 孫
 七
 弟
 七
 兄
 七
 父
 七
 母
 七
 祖
 七
 宗
 七
 親
 七
 友
 七
 鄰
 七
 里
 七
 鄉
 七
 國
 七
 家
 七
 門
 七
 戶
 七
 庭
 七
 室
 七
 堂
 七
 廟
 七
 祠
 七
 壇
 七
 壙
 七
 塚
 七
 墓
 七
 墳
 七
 塋
 七
 園
 七
 林
 七
 木
 七
 石
 七
 土
 七
 水
 七
 火
 七
 風
 七
 空
 七
 地
 七
 天
 七
 人
 七
 鬼
 七
 神
 七
 仙
 七
 聖
 七
 賢
 七
 士
 七
 女
 七
 男
 七
 子
 七
 孫
 七
 弟
 七
 兄
 七
 父
 七
 母
 七
 祖
 七
 宗
 七
 親
 七
 友
 七
 鄰
 七
 里
 七
 鄉
 七
 國
 七
 家
 七
 門
 七
 戶
 七
 庭
 七
 室
 七
 堂
 七
 廟
 七
 祠
 七
 壇
 七
 壙
 七
 塚
 七
 墓
 七
 墳
 七
 塋
 七
 園
 七
 林
 七
 木
 七
 石
 七
 土
 七
 水
 七
 火
 七
 風
 七
 空
 七
 地
 七
 天
 七
 人
 七
 鬼
 七
 神
 七
 仙
 七
 聖
 七
 賢
 七
 士
 七
 女
 七
 男
 七
 子
 七
 孫
 七
 弟
 七
 兄
 七
 父
 七
 母
 七
 祖
 七
 宗
 七
 親
 七
 友
 七
 鄰
 七
 里
 七
 鄉
 七
 國
 七
 家
 七
 門
 七
 戶
 七
 庭
 七
 室
 七
 堂
 七
 廟
 七
 祠
 七
 壇
 七
 壙
 七
 塚
 七
 墓
 七
 墳
 七
 塋
 七
 園
 七
 林
 七
 木
 七
 石
 七
 土
 七
 水
 七
 火
 七
 風
 七
 空
 七
 地
 七
 天
 七
 人
 七
 鬼
 七
 神
 七
 仙
 七
 聖
 七
 賢
 七
 士
 七
 女
 七
 男
 七
 子
 七
 孫
 七
 弟
 七
 兄
 七
 父
 七
 母
 七
 祖
 七
 宗
 七
 親
 七
 友
 七
 鄰
 七
 里
 七
 鄉
 七
 國
 七
 家
 七
 門
 七
 戶
 七
 庭
 七
 室
 七
 堂
 七
 廟
 七
 祠
 七
 壇
 七
 壙
 七
 塚
 七
 墓
 七
 墳
 七
 塋
 七
 園
 七
 林
 七
 木
 七
 石
 七
 土
 七
 水
 七
 火
 七
 風
 七
 空
 七
 地
 七
 天
 七
 人
 七
 鬼
 七
 神
 七
 仙
 七
 聖
 七
 賢
 七
 士
 七
 女
 七
 男
 七
 子
 七
 孫
 七
 弟
 七
 兄
 七
 父
 七
 母
 七
 祖
 七
 宗
 七
 親
 七
 友
 七
 鄰
 七
 里
 七
 鄉
 七
 國
 七
 家
 七
 門
 七
 戶
 七
 庭
 七
 室
 七
 堂
 七
 廟
 七
 祠
 七
 壇
 七
 壙
 七
 塚
 七
 墓
 七
 墳
 七
 塋
 七
 園
 七
 林
 七
 木
 七
 石
 七
 土
 七
 水
 七
 火
 七
 風
 七
 空
 七
 地
 七
 天
 七
 人
 七
 鬼
 七
 神
 七
 仙
 七
 聖
 七
 賢
 七
 士
 七
 女
 七
 男
 七
 子
 七
 孫
 七
 弟
 七
 兄
 七
 父
 七
 母
 七
 祖
 七
 宗
 七
 親
 七
 友
 七
 鄰
 七
 里
 七
 鄉
 七
 國
 七
 家
 七
 門
 七
 戶
 七
 庭
 七
 室
 七
 堂
 七
 廟
 七
 祠
 七
 壇
 七
 壙
 七
 塚
 七
 墓
 七
 墳
 七
 塋
 七
 園
 七
 林
 七
 木
 七
 石
 七
 土
 七
 水
 七
 火
 七
 風
 七
 空
 七
 地
 七
 天
 七
 人
 七
 鬼
 七
 神
 七
 仙
 七
 聖
 七
 賢
 七
 士
 七
 女
 七
 男
 七
 子
 七
 孫
 七
 弟
 七
 兄
 七
 父
 七
 母
 七
 祖
 七
 宗
 七
 親
 七
 友
 七
 鄰
 七
 里
 七
 鄉
 七
 國
 七
 家
 七
 門
 七
 戶
 七
 庭
 七
 室
 七
 堂
 七
 廟

[illegible][illegible]

正セ軌キと云ふ也ニ弘ニ懷ニ西ニ歸ニ家ニ居ニ

宣統元年九月八日

叔系不
會。此
系。ツホ
要人
此。チヤ
明。ヤ
會。ハ
友。ハ
要。ヒキ
ハ。キ
名。メ

舎、梅、雲、人、雲、花、人、舎、雷、鳴、雲、人、新、家、芳、舎

一きすのくあてすや也

一軒春系呂也。及音ハ呂を律はうつをき

喜春系ハ鐘調のる也。平調をもわて

用もや。可也弄くうも律の呂もあうや。

呂律ハ律一行番の人で花後塗

香ちどんてん也。あふ人のすも也

一わあてくうくわ面ハ面の方也。南面ハ晴也

とくもあ也。一忠也後野井弁

一宜陽也。日華門の北也。雲震殿のつ也。弁の

移也。とくもあ也。一わのきんあの別也

世王の家也。女房とあふのくもあ也。あ

人うてつひくう。いふハ方原氏の宅也

のきんあ。あぬもきんあ。あぬもきんあ

一きんあ。あぬもきんあ。あぬもきんあ

一きんあ。あぬもきんあ。あぬもきんあ

一きんあ。あぬもきんあ。あぬもきんあ

一きんあ。あぬもきんあ。あぬもきんあ

一きんあ。あぬもきんあ。あぬもきんあ

一きんあ。あぬもきんあ。あぬもきんあ

一きんあ。あぬもきんあ。あぬもきんあ

一きんあ。あぬもきんあ。あぬもきんあ

一きんあ。あぬもきんあ。あぬもきんあ

一きんあ。あぬもきんあ。あぬもきんあ

一きんあ。あぬもきんあ。あぬもきんあ

一きんあ。あぬもきんあ。あぬもきんあ

刈晨院肇付詳也天台山茶をゆめて枕
取て食し一里をりて。他女は遠く羊を飼ふ

やうぢりりこをきく一ひきはるりて
あといはれ^おもいふちりり也
表下

由按。此六つを去れどもあ

優柔なる物なり月のみあるは姑の字より重

乙之
 而之

小芥ハ摘^ツ拾^ツするものぢやないハ文^ニありていふ
ゆゑにふもたれたる也 一やうのふもたれたる也

やういふいふふもたれたる也 一やういふいふふもたれたる也

一やういふいふふもたれたる也 一やういふいふふもたれたる也

一やういふいふふもたれたる也 一やういふいふふもたれたる也

一やういふいふふもたれたる也 一やういふいふふもたれたる也

一やういふいふふもたれたる也 一やういふいふふもたれたる也

一やういふいふふもたれたる也 一やういふいふふもたれたる也

一やういふいふふもたれたる也 一やういふいふふもたれたる也

一やういふいふふもたれたる也 一やういふいふふもたれたる也

一やういふいふふもたれたる也 一やういふいふふもたれたる也

一やういふいふふもたれたる也 一やういふいふふもたれたる也

一やういふいふふもたれたる也 一やういふいふふもたれたる也

一やういふいふふもたれたる也 一やういふいふふもたれたる也

一やういふいふふもたれたる也 一やういふいふふもたれたる也

一 藤原の衣也 衣荷

一 藤原の衣也 藤原の衣也

一 藤原の衣也 藤原の衣也

一 藤原の衣也 藤原の衣也

一 藤原の衣也 藤原の衣也

一 藤原の衣也 藤原の衣也

一 藤原の衣也 藤原の衣也

一 藤原の衣也 藤原の衣也

一 藤原の衣也 藤原の衣也

一 藤原の衣也 藤原の衣也

一 藤原の衣也 藤原の衣也

一 藤原の衣也 藤原の衣也

一 藤原の衣也 藤原の衣也

一 藤原の衣也 藤原の衣也

一 藤原の衣也 藤原の衣也

一 藤原の衣也 藤原の衣也

一 藤原の衣也 藤原の衣也

一 藤原の衣也 藤原の衣也

一 藤原の衣也 藤原の衣也

一 藤原の衣也 藤原の衣也

一 藤原の衣也 藤原の衣也

一 藤原の衣也 藤原の衣也

一 藤原の衣也 藤原の衣也

一 藤原の衣也 藤原の衣也

一 藤原の衣也 藤原の衣也

康子内親王^{也表}村正帝^也時^ニ弘^ニ儀^ニあり
けるに九^ニ多^ニ右^ニあ^ニあ^ニひてま^ニよ^ニを^ニ流^ニける^ニ例^ニに
多^ニ之^ニ

一^ニみ^ニあ^ニら^ニあ^ニる^ニ例^ニに
一^ニみ^ニあ^ニら^ニあ^ニる^ニ例^ニに
一^ニみ^ニあ^ニら^ニあ^ニる^ニ例^ニに
見^ニよ^ニる^ニ例^ニに

一^ニみ^ニあ^ニら^ニあ^ニる^ニ例^ニに
一^ニみ^ニあ^ニら^ニあ^ニる^ニ例^ニに
一^ニみ^ニあ^ニら^ニあ^ニる^ニ例^ニに
一^ニみ^ニあ^ニら^ニあ^ニる^ニ例^ニに

一^ニみ^ニあ^ニら^ニあ^ニる^ニ例^ニに
一^ニみ^ニあ^ニら^ニあ^ニる^ニ例^ニに
一^ニみ^ニあ^ニら^ニあ^ニる^ニ例^ニに
一^ニみ^ニあ^ニら^ニあ^ニる^ニ例^ニに

一^ニみ^ニあ^ニら^ニあ^ニる^ニ例^ニに
一^ニみ^ニあ^ニら^ニあ^ニる^ニ例^ニに
一^ニみ^ニあ^ニら^ニあ^ニる^ニ例^ニに
一^ニみ^ニあ^ニら^ニあ^ニる^ニ例^ニに

一^ニみ^ニあ^ニら^ニあ^ニる^ニ例^ニに
一^ニみ^ニあ^ニら^ニあ^ニる^ニ例^ニに
一^ニみ^ニあ^ニら^ニあ^ニる^ニ例^ニに
一^ニみ^ニあ^ニら^ニあ^ニる^ニ例^ニに

一^ニみ^ニあ^ニら^ニあ^ニる^ニ例^ニに
一^ニみ^ニあ^ニら^ニあ^ニる^ニ例^ニに
一^ニみ^ニあ^ニら^ニあ^ニる^ニ例^ニに
一^ニみ^ニあ^ニら^ニあ^ニる^ニ例^ニに

下

月如へし。此の志を法衣の外と見たり
一まへに日陰のうつらうつらとあを結んで結を
そめはるる金糸の如き日月の光とされぬとよとを
とてとてとせり。一とてとてとてとてとてとて
はははははは。花を咲かせしげり。とてとてと
このまへに。又まきの官位は付た名を咲かすの如
也。思ふに。何れまきのいふまへあり。あつてとてと
まよふとてとて。のまきのいふまきのいふまきの
一とてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
つとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて

まて也。まてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
まて也。まてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
一とてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
足のとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
船の結を金糸の如き日月の光とされぬとよとを
あつてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
まてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
とてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
のまきのいふまきのいふまきのいふまきの
とてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
とてとてとてとてとてとてとてとてとてとて

一、今案ありハ裾也。裾キヨ

多きくくる。あつてふやうに

一しらのけりは連日本記介はあひし
後とある

一しらの人々也。又あそふひと定本は
宋振人れ。本の系あひし。あつむ。残のあ
けのち也

一しらの人々也。又あそふひと定本は
宋振人れ。本の系あひし。あつむ。残のあ
けのち也

一しらの人々也。又あそふひと定本は
宋振人れ。本の系あひし。あつむ。残のあ
けのち也

一しらの人々也。又あそふひと定本は
宋振人れ。本の系あひし。あつむ。残のあ
けのち也

一しらの人々也。又あそふひと定本は
宋振人れ。本の系あひし。あつむ。残のあ
けのち也

一しらの人々也。又あそふひと定本は
宋振人れ。本の系あひし。あつむ。残のあ
けのち也

一しらの人々也。又あそふひと定本は
宋振人れ。本の系あひし。あつむ。残のあ
けのち也

一しらの人々也。又あそふひと定本は
宋振人れ。本の系あひし。あつむ。残のあ
けのち也

一しらの人々也。又あそふひと定本は
宋振人れ。本の系あひし。あつむ。残のあ
けのち也

一しらの人々也。又あそふひと定本は
宋振人れ。本の系あひし。あつむ。残のあ
けのち也

一しらの人々也。又あそふひと定本は
宋振人れ。本の系あひし。あつむ。残のあ
けのち也

一しらの人々也。又あそふひと定本は
宋振人れ。本の系あひし。あつむ。残のあ
けのち也

宿法也

[illegible]

陽成院は安寝殿西に敷出三間立螺鈿
 子。今あまは上は安ハニ条院までとこゝろを
 一丁くゝるに
 一丁ちも中々あるぞ也。
 けちどこのすきなりとてふ略のころあまは
 一丁くゝるのひんぐありて西のふりひんぐ
 面は鞠のころとて桐葉のころとてわたりぬ。
 今ハ所ぬきれおあり也。寝殿南にとも末
 より南のあまは一丁ぬれりはさしと
 しちり。花資推。怒の花とてはさしと
 けり中より。是ハ花の枝とてあまはくわ

一、（五十二）
一、（五十三）
一、（五十四）

しらばね也

一うううり中のとハ

和琴の弦の強く。和曲の曲の強く。素の曲の強く。

きこえうむと也 一きこえのけ服 清浄の強く。

神聖の強く。散花の強く。堂達の七位役者也。

一ぬきうのうらなうのうらへて。素の曲の強く。

かきねるすうのうらへて。素の曲の強く。

若くは素の曲の強く。素の曲の強く。

一いでの山 千手経 死天山門集鬼神

一やくちやう 仏名中ニ夜錫杖の強く。

ぬれ祝ふとくより 一のうらなうのうらへて。

一いでの山 白民文集十四の強く。

中是素の曲の強く。素の曲の強く。

開有生靈魚の強く。素の曲の強く。

紙魚の強く。素の曲の強く。

くうの強く。素の曲の強く。

一きこえの強く。素の曲の強く。

道當得の強く。素の曲の強く。

大文字の強く。素の曲の強く。

特の強く。素の曲の強く。

一いでの山 白民文集十四の強く。

中是素の曲の強く。素の曲の強く。

開有生靈魚の強く。素の曲の強く。

紙魚の強く。素の曲の強く。

くうの強く。素の曲の強く。

一きこえの強く。素の曲の強く。

然也。ひくすうと云回んを

ひくすや火焼金神供一ひくす也

ひくすけ河花共叩とある。中ひくす也

ひくすや金銀ともある。ひくすて。神ひくす

一也。ひくす。長和二年三月

雷鳴氷降大如梅あれる也

人のみくすもあつて。傳説ホ古史。不

可勝斗也。あつて。ひくす。ひくす。ひくす

琵琶ひくすある。ひくす。ひくす。ひくす

ひくす。ひくす。ひくす。ひくす

ひくす。ひくす。ひくす。ひくす

ひくす。ひくす。ひくす。ひくす

ひくす。ひくす。ひくす。ひくす

ひくす。ひくす。ひくす。ひくす

ひくす。ひくす。ひくす。ひくす

ひくす。ひくす。ひくす。ひくす

ひくす。ひくす。ひくす。ひくす

ひくす。ひくす。ひくす。ひくす

ひくす。ひくす。ひくす。ひくす

ひくす。ひくす。ひくす。ひくす

ひくす。ひくす。ひくす。ひくす

ひくす。ひくす。ひくす。ひくす

ひくす。ひくす。ひくす。ひくす

ひくす。ひくす。ひくす。ひくす

ひくす。ひくす。ひくす。ひくす

さねととも也

肝要とありとも也

一ひと来よ 呼 鑑 かく 審

一ひぐりいふんのおねす

とれけりく 天海寺は合花方御演は系檀机

蘇芳下れは系綺地あると今案九方後も

は系檀のおよへて蘇芳のまゝてつるけりく

はとも又下づくまゝていふお地は系のうれ綺

也。おはぬハれとすへう地は也。それハ蒲萄酒

りの綺也。花はハれの足藤の祈也

一花を張るひといふとてに 哥合殿格とてあ

也。天海の哥合は合流を枝と例はすへうす

はれそあとも。花の枝をくすともいふ也

ひつのもともひ 次生蛙兒雖已三歳而脚不立

里夏中記 一日のまゝみさうにハレ

う。陽成院の母二系后也。素平中將ちづと

あるも伊勢物語はるくをれとて一た傳

み文とてある也 一ひーろひていふも

一ひとて中々のあまへあまの山柿をよまあす

の十日あまののねはあまのうらうらあは使

式ア忠忠隆ありそれとてひててあま

つと。あまのうらうらあまのあまのあま

いふとてあまのあまのあまのあま

いふとてあまのあまのあまのあま

いふとてあまのあまのあまのあま

いふとてあまのあまのあまのあま

いふとてあまのあまのあまのあま

尺さうひらさくのうらもろ

一ひぐんのもて時ふにきりしうはもはきりしうはも

一ひいほー 度星 白よびもり

一ふのふまうらうんきりしうはもはきりしうはも

一きりしうはもはきりしうはもはきりしうはも

一きりしうはもはきりしうはもはきりしうはも

一きりしうはもはきりしうはもはきりしうはも

一きりしうはもはきりしうはもはきりしうはも

一きりしうはもはきりしうはもはきりしうはも

一きりしうはもはきりしうはもはきりしうはも

一ひらさくのうらもろ

一ひらさくのうらもろ

一ひらさくのうらもろ

一ひらさくのうらもろ

一ひらさくのうらもろ

一ひらさくのうらもろ

一ひらさくのうらもろ

一ひらさくのうらもろ

一ひらさくのうらもろ

一ひらさくのうらもろ

一ひらさくのうらもろ

一ひらさくのうらもろ

一ひらさくのうらもろ

一ひらさくのうらもろ

一ひらさくのうらもろ

一ひらさくのうらもろ

一ひらさくのうらもろ

目見病人死必死

一人ふまれとあぐまれば

とわれ死せしめられと云河也

一人のみことと

楊美妃唐帝思李夫人去

漢王情順

一人の世に人相と

皆之病不如遇傾城笑 良文集

一人こそ人相水より守也

ひと地のうき水と六月暑とくらぬ月影

よや何妻

一ひさしとさしられん

やめしうてきよると人不知也

一昨文のゆく女文の種らひとあら

一人よとられ

一人の年といふ

一人は若是まは迷入難也

ひととて又面藕きよりとてとて思

あちとて用とあり 一ひさしとてあやう

て無本流とありとてとて人の様のかた

あちとてとてとてとてとてとてとて

さ舟の舟とてとてとてとてとてとて

む凡とてとてとてとてとてとて

一ひさしとて 陵園妾拒城終日風蕭瑟

おぼろのふねは 倭の 陸国 安し 何と

ひろく せ ひろく 入てめあ也

ひろく せ ひろく 入てめあ也

ひろく 入る也 一ひろく せ 中へ 入る

ひろく せ 入る也 一ひろく せ 中へ 入る

ひろく せ 入る也 一ひろく せ 中へ 入る

ひろく せ 入る也 一ひろく せ 中へ 入る

ひろく せ 入る也 一ひろく せ 中へ 入る

ひろく せ 入る也 一ひろく せ 中へ 入る

ひろく せ 入る也 一ひろく せ 中へ 入る

一ひろく 救也 倭也

一ひろく せ 中へ 入る

也 倭也

一ひろく せ 中へ 入る

百歩六十六也 百歩のえろ 八夜 倭也

も

一ひろく せ 中へ 入る

帝 揚美地と 竈を して 天下と 倭也

一ひろく せ 中へ 入る

一ひろく せ 中へ 入る

一ひろく せ 中へ 入る

一ひろく せ 中へ 入る

一ひろく せ 中へ 入る

一ひろく せ 中へ 入る

うらぬあれば也 一うらぬにたうらぬ人
内山仁初もあつていへど。そは津波もあつて
うらぬうらぬとて おさめた人のくつとつを
おぼえども也 糸のいん 夢さる八緒着也
一うらぬうらぬ 果てはうらぬうらぬ人
蛭蛉 行解 一うらぬうらぬ 一うらぬうらぬ
細乳 一うらぬうらぬ 一うらぬうらぬ
おぼえどもあつて津波もあつていへど。そは津波もあつて
不降と不降とあつていへど。そは津波もあつていへど。そは津波もあつて
くせにあらぬ 漢書なる其例多野相る在

他は西文を府へて授解 授解 授解 授解
赴配系之入不可勝計 白氏文集序も
一うらぬうらぬ 地を授解とてあつて
一文をば 原孝子も授解とてあつて
一うらぬうらぬ 授解とてあつて
とつて。只授解の中へて授解とてあつて
と素始白文。授解とてあつて
ハ下ト通じてあつて
一うらぬうらぬ 授解とてあつて
金谷春花蒲林朝陽五千里 授解とてあつて

一、二、三、四、五、六、七、八、九、十

もれ角のり也

一、そのうちを

馬立冬行日ちれへをれ衣久の心也

一、海防輪臺の序也。つれを

あり。南宮諱之。曲柔私情。時大納之良峯。

安世紀略義勅令_ニ依_ル舞_ハ時_ニ依_ル勅_ニ改_メ成_ス盤_ノ 五八

涉調但詠小野篁作略之

一口さよしのまんぢやま 威まろきめを

うねるもふかられちるふ必あふべし

あゝ也。戚丈人の漢高祖の妾趙主如意の母也。

惠帝の太子を弑せしむるを立ふん

とつてゐるやうにして、高祖八崩したる患

帝位よりて後呂太后にむかひんと

て。臧吏人の眼をやくそ人^{ひと}と名づけく。やれ

中よりあそびしものなり也史記曰

后本江太店遂初戚友人自是去眼燁耳飲

唐萊使居園中余曰人處

やうに見えどもせやうにも

幕のやうな地ふ。さうな松ちと

河内

之びくろと花
耶修多羅世八焚灯江

の出世の時、瞿夷イ女と云故也。所瞿イ羅のワ多ス

とひひうさうとな別の因縁あるべしやうやう

六波羅會エ上より二条成基のきよりをひ

らそそ未^ニの^イ記^キ下^カを^ニび^ヒあ^ハし^シ時^ト我^ガ為^ニを^ニ子^コ

ふさひつゝさうとくさうや

胃の節は不歳時也

やういふおね ねえとめがうそをいふし

松門曉到月徘徊
白虎文集卷之三

くねのさく御

寸

一
何人

一

笈又すゑれん也
 丁人そ 邦の字也

邦の字也

一すくえり 宿曜^{シユタウヨウ} 廿八宿九曜^{シユタウクウヨウ}の初^{ハジメ}なるものとて
人の運命^{サンメイ}を助^{サシ}けおとす。てんりんとうをのしむとて
す

修理ユリ機キとハ内ウチノミ通ツ寮サカ也。作スるルもモナリ也。毒
近キンきもの事コトと云イフふ也。何ナニ内ウチノなまマずズするスこと
一ヒトすスるルもモナリ。好アガヒ色シヨクをセえエ也。

一すいせん もつちとあつちをまきつれもほわて
一すうく ちへいも也 一すうれり ちへいも也
一ちん也 賺ズカ 一すことのぬき人ハ也
一ずちちとつちそ ずちちとちちちちちちち

やん法王のち權をとりて國師衣冠のものと
んとあるもの。人の心は代玉のものとてけり

一寸くは 一寸くは 一寸くは 一寸くは 一寸くは

一すくようぢぬ。すくようハす也。まぐようあゝぬ
いんそよちまじりもの也。せなまれてくゝあ
は山の遠^{エニ}近^{オホ}をあゝくす也。今^{イマ}墨^{スミ}一^{ヒト}文^{モン}あて
すみまをくゝじや也。一すくうがそ。そくうさそ
目^メぐくちをつくうさ痛^{イタ}也。心のうれさう歎^{ナガメ}べし

つりまへ也

つりまへりころあふ

人々をあらうもあふし。人々をあらふもあふし。

下

すまのまね

なまぬき也

すまのまね

の頂は下れ也

すまのまね

何事也

すまのまね

いふらん小室を筆記よ。あふのまねは。

あふのまねは。あふのまねは。あふのまねは。

あふのまねは。あふのまねは。あふのまねは。

あふのまねは。あふのまねは。あふのまねは。

女院崩内。依諒閣。被傍止也。

すまのまねは。あふのまねは。あふのまねは。

あふのまねは。あふのまねは。あふのまねは。

あふのまねは。あふのまねは。あふのまねは。

あふのまねは。あふのまねは。あふのまねは。

あふのまねは。あふのまねは。あふのまねは。

あふのまねは。あふのまねは。あふのまねは。

あふのまねは。あふのまねは。あふのまねは。

あふのまねは。あふのまねは。あふのまねは。

あふのまねは。あふのまねは。あふのまねは。

あふのまねは。あふのまねは。あふのまねは。

けつろにまゐられけりとも

すいせん 湯がけとも二丁ぐー けひそ 慢下法

そとも也 けのうへし 下丁くさくさけりとも

下子法のかまうともいふ花回也

一 朱雀院の山門ありし法華の後ありし法華のう

ばてのり 一 ずいの山を右のよふとも

てきた今東内典外典はまゐるとりつりありと

いふ今れ地終つるる者他人のみけの奇夢

まどけふふさう一 ともあふふあふ一 他をもつる

さるへしと頂法ともハ梵法ハ八種迷通山唐

よめりともいふ。地をよめてつりつるともいふ

地入るる方地自地ともいふ。今ま。合て十六方中

のあつたなりてつるるとなつたる也。東西南北を列

わり。日月のあつた方とありて書ねと題してい

ふ。此方今たのあつた方とのよふんとす。此のあつ

たり。とつていふともありてつるると頂法のもつた

ともいふともありてつるるとつたともいふ。右の

つるるといふ。のつるともいふ。のつたともいふ

日といふ。つるるといふ。日といふ。つたともいふ

のつたともいふ。つるるといふ。つたともいふ。つ



